

令和6年12月3日

富良野市議会議長 渋谷正文様

市民福祉委員長 後藤英知夫

委員会事務調査報告書

令和6年第3回定例会において、継続調査の許可を得た事件について、下記のとおり結果を報告します。

記

1. 調査案件

調査第3号 高齢者の保健事業と介護予防の取組について

2. 調査の経過及び結果

別紙のとおり

＝別紙＝

調査第3号

高齢者の保健事業と介護予防の取組について

市民福祉委員会から、令和6年第3回定例会で許可を得た、事務調査第3号「高齢者の保健事業と介護予防の取組について」の調査の経過と結果について報告する。

本委員会は、担当部局に資料の提出と説明を求め、本市が取り組む高齢者の保健事業と介護予防事業について、現状を把握し、これまでの取組に関する聞き取りや、課題と対策、今後の取組について調査を進めてきた。

あわせて、市内における取組状況の実態を把握するため、北の峰ふれあいサロンへの視察及び富良野市社会福祉協議会に委託配置している富良野市生活支援コーディネーターと意見交換を行った。

本市は、第9期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画を基本に、介護予防・フレイル予防のさらなる推進、高齢者の社会参加と地域の担い手の活躍の場づくりなどの各施策を進める中、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施として、高齢者の生きがいがづくり、健康づくりと連動した取組を進めている。

また、令和5年5月に富良野市健幸都市推進プランを策定し、「人はもとより都市そのものを健康にすることで、市民が自然に健康で豊かになれる新たな都市モデルの構築」に取り組んでいる。

令和4年度における高齢化率の全国平均29%に対し、本市は35.2%と3人に1人以上が高齢者となっている現状にあり、今後もこの傾向は続くものと思われ、一層の要介護認定率の上昇が見込まれる。そうした社会情勢において、本市の高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施は、全国1,741市区町村から15の好事例のうちの1つとして選ばれ、厚生労働省のホームページに掲載されている。

全国でも先進的な取組により、低栄養・生活習慣病等の重症化予防や健康状態不明者への実態把握に加え、老人クラブやふれあいサロン等での健康教室の実施によるフレイル予防や閉じこもりの予防など様々な効果が期待されている。

また、ふらの健幸ポイント事業により市民一人ひとりが楽しみながら、健康づくりに取り組むことのできる環境整備を進めている。

さらに、令和6年9月に保健福祉部と経済部の共同健幸イベントとして、ふらのベジウォーク in 山部を開催しており、部局を超えた連携取組も行われている。

今後も加速する高齢化社会において、こうした取組による高齢者の生きがいがづくり、健康づくりが期待される中、本委員会では、大きく次の3点に絞って調査を進めてきた。

1点目は、通いの場についてである。

本市の通いの場は、ふれあいサロン、ミニサロンをはじめ、介護予防教室やふまねっと運動などがあり、社会福祉協議会をはじめ、民間事業者や民生委員児童委員、地域住民と連携し、様々な観点から介護予防事業に取り組んでいる。しかしながら、こうした通いの場における参加者の情報はデータベース化されておらず、今後は、通いの場における参加者の情報をデータベース化し、科学的根拠に基づき分析することで、地域課題に対する改善の手がかりに繋げていく必要がある。また、こうした分析の結果をもって、地域住民と議論する場を設けることで、通いの場の拡充と参加者の増加が見込まれることから、介護予防事業の一層の推進に繋がっていく余地があると感じたところである。

ふれあいサロンへの参加にあたり、移動手段の確保が難しい地域には乗り合いタクシーの利用支援を行っているが、今後の通いの場の運営を見据えると、地域の実情に即した移動手段の確保と男性参加者の増加に向けた取組が課題となっている。

2点目は、ふらの健幸ポイント事業についてである。

本事業は、日々のウォーキングや健康診査の受診によるポイント付与など、項目別に付与ポイントが決められており、参加者それぞれがポイントを貯めることで、最大5,000円分の市内共通商品券との交換や市内小中学校への寄附が行えるものである。事業参加者は年々増加傾向にあり、中でも高齢者の参加率が増え、令和6年10月末時点の事業参加者は626名となっている。参加者増加の要因として、令和5年度から友人を勧誘することで付与されるお友達紹介ポイントを導入したことなど、参加者からの口コミによる効果が挙げられ、本事業が広く市民に浸透してきている。しかしながら、健康診査の結果や通いの場であるふれあいサロン、ミニサロンへの参加に伴うポイント付与などは行われておらず、今後の更なる事業推進に向けて、ポイント付与項目の拡充を行うことで参加者増加の余地を感じたところである。

3点目は、フレイル予防の取組についてである。

フレイル予防は、「栄養」、「身体活動」、「社会参加」を3つの柱としており、本市においても重点課題として、通いの場などの社会参加を機会としたポピュレーション（集団への）アプローチをはじめ、低栄養防止等のハイリスク（個人への）アプローチや健康診査、歯周病検診の受診勧奨に取り組んでいる。

しかしながら、歯周病検診の受診率は決して高いとは言えない状況（15～17%代）であり、受診率向上に向けたさらなる取組と、口腔機能が衰えることで食

欲低下、低栄養、フレイルのリスクが高まることから、オーラルフレイル予防の重要性などについて、一層の啓発・周知が必要である。

また、認知症高齢者数の増加が続く中、フレイル予防の取組に注力することで、一人でも多くの認知症の発症予防に繋がっていくと感じたところである。

これら本委員会での議論において、都市事例調査による先進地の取組事例等の知見を踏まえ、さらなる議論を重ね、次の3点で意見の一致を見た次第である。

1. 通いの場における科学的根拠に基づいたデータ分析と議論の場の構築について

高齢化の進展が予想される中、通いの場のさらなる発展に向け、参加者情報のデータベース化及び科学的根拠に基づいたデータ分析を進め、地域それぞれの課題や傾向を改善に繋げることで、医療費や介護給付費の抑制に繋がると考える。あわせて、同時に市民一人ひとりの健康に対する意識醸成が図られることから、健康診査、歯科健康診査の受診率の向上及び健康無関心層の減少に寄与していくと考える。また、データベース化を図ることで、職員に対する業務負担の軽減を図ることができる。

通いの場のように運動や社会参加の要素をもった取組は重要性を増していくことから、参加者情報のデータベース化及び科学的根拠に基づいたデータ分析の実施を検討し、分析結果を活用した会議体の開催に努められたい。

2. 通いの場における移動手段と開催場所の確保について

通いの場の参加者の増加を促進するため、地域の現状に応じた乗り合いタクシーの利用促進と農村地区における移動手段の確保を検討されたい。

また、移動手段の確保にあたっては、利用者への金銭的負担の軽減に努められたい。

さらに、開催場所のキャパシティが参加の妨げとならないよう、より多くの高齢者が通いの場に参加できる環境の構築に努められたい。

3. ふらの健幸ポイント事業の拡大について

令和5年度に行ったお友達紹介によるポイント付与など、口コミによる効果が大きいため、参加者増加に向けた取組を検討されたい。

事業の拡大にあたっては、健康診査の結果に応じたポイント付与や通いの場の参加によるポイント付与対象の拡充をはじめ、運動以外の文化的要素の導入など、ポイント付与項目の増加を検討されたい。

また、健康無関心層へのアプローチに加え、「歩きやすい、歩きたくなるような」まちの整備に向けては、部局を超えた庁内連携が必要不可欠であることか

ら、一層の連携強化を推進されたい。